

認知症イノベーションアライアンスWG 令和6年度 第2回 事務局資料

今後の認知症イノベーションアライアンス ワーキンググループの取組について

経済産業省 ヘルスケア産業課

経済産業省における認知症事業等 の全体像の報告

認知症イノベーションアライアンスWG：令和6年度協議内容

- 認知症イノベーションアライアンスWGは、認知症の人の尊厳・想いを尊重しながら、産業、公的機関、医療、福祉等様々なステークホルダーと連携し、イノベーション創出に向けた検討を行う場。
- 令和6年度は、当事者参画型開発モデルの推進、認知症予防市場の環境整備、研究開発の促進等の論点についての進捗を報告し、必要とされる認知症施策について議論。

令和6年度委員選定および開催日程・方法

- 座長 … 東京大学 岩坪教授
- 委員 … 28名（学識、企業、当事者等）
- オブザーバー … 厚生労働省等
- 第1回：令和6年11月19日@ウェブ開催
- 第2回：令和7年2月19日@ウェブ開催

認知症イノベーションアライアンスWG（事務局：経産省、日本総研）

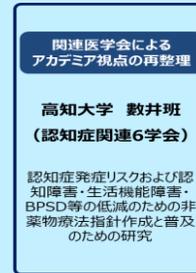
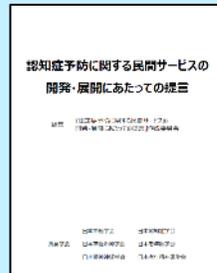
①当事者参画型開発モデルの推進

オレンジイノベーション・プロジェクトの推進



②認知症予防市場の環境整備

認知症関連6学会による「提言」や「指針」の整備



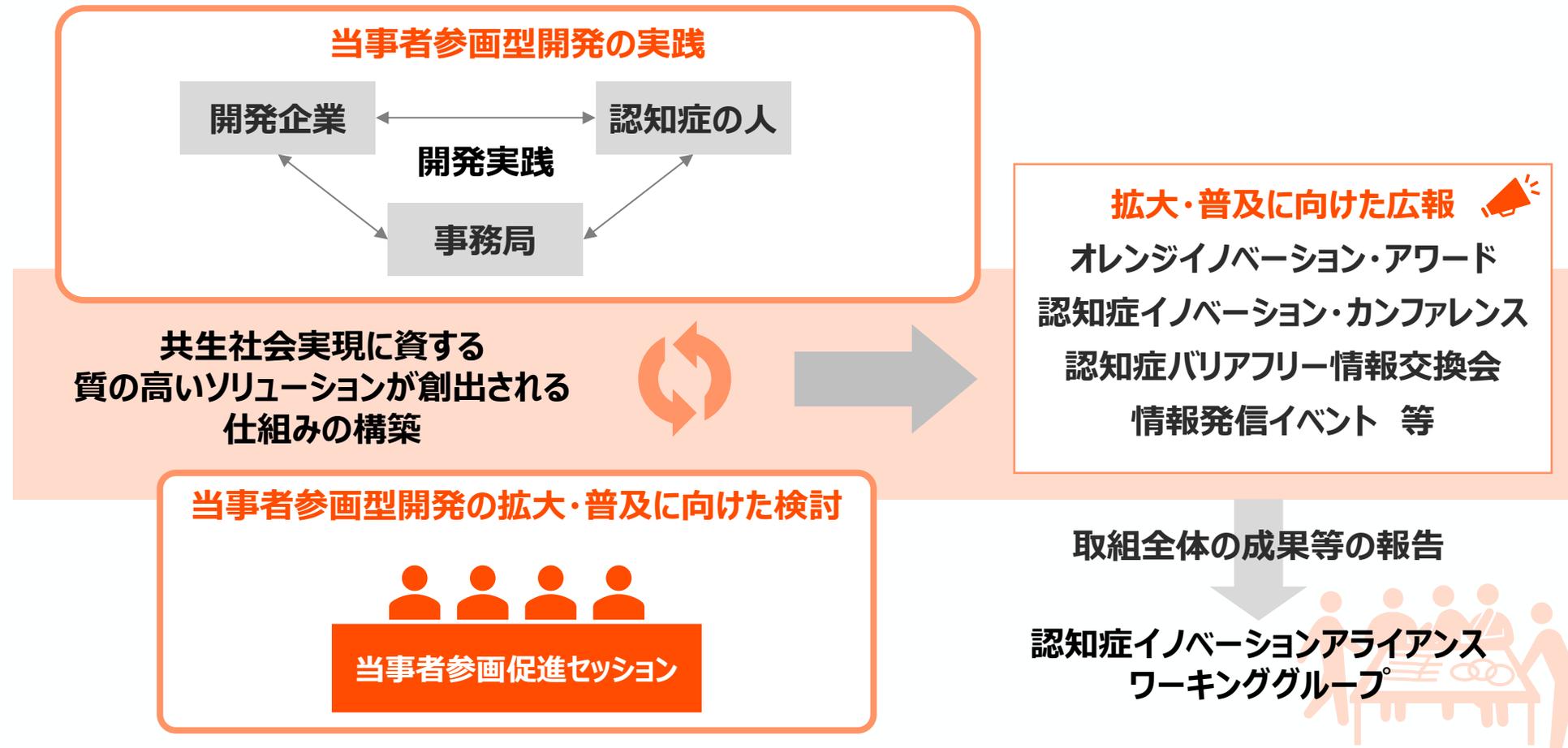
③研究開発の促進

共生・予防等に関してエビデンスを構築する実証事業を支援



① 当事者参画型開発モデルの推進

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（＝オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 令和6年度は、持続的な仕組みの実現に向け、本プロジェクトの一層の継続・拡大に向けた取組を実施。



【参考】認知症施策推進基本計画における位置づけ

- 令和6年12月3日に閣議決定された「認知症施策推進基本計画」において、認知症の人と家族等が企業の開発活動に参画することについて、基本的施策および重点目標の一部として盛り込まれている。

Ⅲ 基本的施策

2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進

(4) 認知症の人にとって利用しやすい製品・サービスの開発・普及の促進

日本認知症官民協議会による官民連携の下、認知症の人と家族等が参画した、認知症の人が地域で生活する上で利用しやすい製品・サービスの開発・普及を促進するため、モデル的取組を好事例として展開し、そうした取組が自主的、継続的に進むよう取り組む。

【重点目標3】

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること

プロセス指標	アウトプット指標	アウトカム指標
<ul style="list-style-type: none"> 部署横断的に認知症施策の検討を実施している地方公共団体の数 認知症の人と家族等が参画して認知症施策の計画を策定し、その計画に達成すべき目標及びKPIを設定している地方公共団体の数 	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援も含めて個別の相談・支援を実施していることを明示した認知症地域支援推進員や若年性認知症支援コーディネーターを設置している地方公共団体の数 認知症バリアフリー宣言を行っている事業者の数 製品・サービスの開発に参画している認知症の人と家族等の人数 基本法の趣旨を踏まえた認知症ケアパスの作成・更新・周知を行っている市町村の数 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいると感じている認知症の人の割合 地域で役割を果たしていると感じている認知症の人の割合 認知症の人が自分らしく暮らせると考えている認知症の人及び国民の割合
<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護従事者に対して実施している認知症対応力向上研修の受講者数 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症疾患医療センターにおける認知症関連疾患の鑑別診断件数 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の希望に沿った、保健医療サービス及び福祉サービスを受けていると考えている認知症の人の割合

② 認知症予防市場の環境整備

- 一昨年度、事業者が適切なエビデンスに基づいてソリューション開発に取組、消費者が適切に判断できる環境づくりを目指し、診療ガイドライン等の作成実績のある認知症関連6学会より構成される委員会で、製品・サービス開発時の基本的な考え方について「提言」の形で策定。
- 令和6年度は、提言普及状況や企業における関連サービス開発・展開状況の把握、学会における普及啓発活動等を実施。

本年度実施事項

提言普及状況の把握	<ul style="list-style-type: none">● 提言が現状どの程度普及しているのか等の実態について、今後の普及活動に資するため、予防に関するサービスを展開している事業者に対し調査を実施● 普及状況に加え、活用状況や予防に関する事業者の認識などを把握
企業における関連サービス開発・展開状況の把握	<ul style="list-style-type: none">● 今後の普及活動含む本取組の推進に資するため、個社の製品・サービス開発や展開状況について、調査を実施● 製品・サービス分類ごとに、効果検証の実施状況や効果のPR手法等の傾向等を把握
認知症関連学会における普及啓発活動	<ul style="list-style-type: none">● 第42回日本神経治療学会学術集会においては市民公開講座で、第43回日本認知症学会学術集会においてはミニシンポジウムで、提言の活用により目指す社会等に関する講演を実施
企業等に対する普及啓発活動	<ul style="list-style-type: none">● 広く本分野に関心のある企業や自治体担当者、専門職等に対して、提言の普及とあわせて本年度AMED事業により作成された「ヘルスケアサービス利用者・事業者も使用可能な認知症に対する非薬物療法指針」について解説するセミナーを実施予定（※2025年3月12日を予定）

③ 研究開発の促進

予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（エビデンス構築促進事業・ヘルスケア社会実装基盤整備事業）

- 認知症を含むヘルスケアサービスが科学的エビデンスに基づいて社会実装されるには、「行動変容のエビデンス構築」、「エビデンス整理」、「実用化を見据えたサービス開発」の各ステップに課題があり、日本医療研究開発機構（AMED）を通じて早期フェーズでの研究事業を支援。

行動変容のエビデンス構築（令和 5~7年度）

【課題】医薬品等に比較して非薬物的介入はエビデンスが不十分

① 認知予備力説に基づく介入の組み合わせによる最適化の検証

- 神戸大学 古和班
- 慶應義塾大学 三村班

② デジタル技術を活用した早期検知技術の開発

- 東京大学 飯島班
- 日本テクトシステムズ株式会社 木之下班

③ 生活接点の場における効果検証

- 東京都健康長寿医療センター 岡村班
- 東京都健康長寿医療センター 鈴木班
- 国立長寿医療研究センター 大沢班

エビデンス整理（令和 4~6年度）

【課題】蓄積したエビデンスをオーソライズする機能がない

医学会による指針の策定

関連医学会による
アカデミア視点の再整理

高知大学 数井班
(認知症関連6学会)

認知症発症リスクおよび認知障害・生活機能障害・BPSD等の低減のための非薬物療法指針作成と普及のための研究

研究代表
高知大学 教授 数井 裕光

<関連6学会>

日本認知症学会 日本老年精神医学会
日本神経学会 日本神経治療学会
日本精神神経学会 日本老年医学会

日本医療研究開発機構
(AMED)

研究支援

当事者参画型開発モデルの推進

①今年度の取組状況等の報告

当事者参画型開発の取組の目的

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（=オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 本取組の目的は、共生社会の実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。

当事者参画型開発の取組み



本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ **認知症の人自身が、協力の意思を持って**、それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- 認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ここでの「**開発**」は**新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

企業・団体等の参画状況

- 本プロジェクトは、2020年度に検討を開始し、認知症の人とともに生活課題の解決ややりたいことの実現に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体を対象に開発の支援を継続的に実施。
- 今年度は、46の企業・団体を採択した（2020～22年度：5社⇒2023年度：20社⇒2024年度：46社）。

※外部有識者からなる審査会（非公開）において採択可否を検討

令和6年度 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（46企業・団体）



各社が開発している製品・サービスの概要（1 / 3）

第1回WG
資料再掲

- 各社は、多様な生活課題を対象に当事者参画型開発を実践。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
買い物・小売り	KAERU株式会社	使いすぎ防止やワンタッチカード停止などの機能を搭載したキャッシュレスサービス「KAERU」
	株式会社マイヤ	認知症になってもやさしいスーパー スローショッピング
	株式会社イトーヨーカ堂	誰にとっても使いやすい「みんなのパジャマ/ステッキ/ルームシューズ」
移動	トヨタ自動車株式会社	誰もが不安なく外出できる徒歩用道案内サービス「ツギココ」
	LOOVIC株式会社	ご本人と身近な人でつくる、コエを用いた安全・安心の外出を支援する無人ナビガイド
食・料理	株式会社セブン&アイ・フードシステムズ	当事者の声を踏まえた、ファミリーレストラン「デニーズ」のメニューブックなどの改良
	西部ガス株式会社	誰でも安心して使えるガスコンロ「SAFULL+（セifulプラス）」
	リンナイ株式会社	
口腔ケア	ライオン株式会社	生涯を通じて、よく食べ、話し、笑い、自分らしく居続けられるために役立つ製品・サービス
趣味・学び	株式会社さくらほりきり	誰もが簡単に完成度の高い作品が作れる手作りキットと、好きな時に見られる作り方の動画サービス
	株式会社第一興商	誰もが一緒に楽しめる音楽コンテンツサービス「FREE DAM」
	株式会社テコデコドリーム研究所	思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く人生まるごと回想アルバム
	大塚製薬株式会社	当事者の理解を深めるための体験型介護支援VRトレーニングプログラム「FACEDUO（フェイスデュオ）」
	株式会社welzo	「老いるを楽しむ」社会の実現に向けた園芸サービスとユニバーサルデザインの園芸グッズ
生活・住環境	TOTO株式会社	多様な利用者に配慮したパブリックトイレ

各社が開発している製品・サービスの概要（2 / 3）

第1回WG
資料再掲

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
衣服・靴	株式会社大翻	かかとも、左右・前後ろもない、履き口がわかりやすい靴下「Unicks」
	株式会社フェリシモ	裏表・前後のないTシャツ・ズボン・ソックス
	YKK株式会社	誰もが簡単に開閉・着脱ができるファスニング商品
	豊島株式会社	当事者が使いやすい衣料品、日用品
	株式会社チヨダ	手を使わずに、立ったまま、スパッと履ける「スパットシューズ」
運動・身体活動	株式会社CogSmart	脳と身体の健康のため、自分の好きな運動や身体活動をサポートする「BrainUp」アプリ
	株式会社ルネサンス	五感からの刺激や身体を動かすことで、楽しく、笑顔で脳を活性化する「シナプソロジー®」や軽運動
	ロート製薬株式会社	日常生活をサポートする手袋やサポーター（仮称）
生活支援全般	株式会社ソフトデバイス	スケジュール管理を支援する「日めくりカレンダーアプリ yottey(ヨッティ)」
	株式会社LIMNO	自らの意思による自分らしい生活をサポートするタブレットソリューション「ヘルプタブレット（仮称）」
	株式会社コスモテック	いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつける“身につけるメモ帳”「wemo」
	アデツソ株式会社	日付・曜日の表示が大きい「デジタル日めくりカレンダー」
旅行	合同会社トラベルケアふくおか	介護付き旅行／トラベルケアふくおか／認知症の方が、観光案内ガイドで福岡の魅力を伝える旅行サービス
	豊橋鉄道株式会社	安心して楽しめる日帰りバスツアー
	株式会社小谷常	ユニバーサルツーリズムを提供する旅館「水屋敷」での宿泊サービスと就労支援

各社が開発している製品・サービスの概要（3 / 3）

第1回WG
資料再掲

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
コミュニケーション・交流	Hubbit株式会社	認知症の方も利用できる話せる伝言板「ケアビー」
	ユカイ工学株式会社	予定のお知らせなど、日々の暮らしを声でサポートする可愛いロボット「BOCCO emo（ボッコ エモ）」
	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	独自の特許技術「SoninBrain」を採用した聴覚支援機器「コミュニケーション」「コミュニケーションポケット」
	ノックオンザドア株式会社	同じ境遇の仲間や悩みを相談できる専門家と繋がることができるオンラインサービス
	みまもりあいプロジェクト	「地域共生支援アプリ」を活用した、1人でいても、ひとりぼっちにしない「福祉SNS」
	株式会社日立ソリューションズ	誰もが不安なく日々の生活を送るためのシニアに向けた対話型のAIサービス
	株式会社シーエーシー	当事者同士およびその他の人とのコミュニケーション創出サービス
	株式会社ビークル	日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」
	象印マホービン株式会社	家族が離れて暮らしていても、安心して一人で生活するための支援サービス
美容・衛生	一般社団法人日本介護美容セラピスト協会	どなたでも、いくつになっても、使いやすい・続けやすい高保湿スキンケア「momote（モモテ）」
	牛乳石鹸共進社株式会社	コップ一杯の水で爽快な湯あがりを提供する『YUAGARI』 ポータブル洗髪機&洗浄剤
金融・財産管理	株式会社太陽生命少子高齢社会研究所	「認知症保険の太陽生命」においてより良いサービスを効果的にお客様にご紹介する仕組みの検討
	株式会社北國銀行	シンプルな機能と操作性でどなたでもスムーズに利用できる自社開発ATM「ホックタッチ」
その他	経済産業省	認知症の人と企業が製品を共創する「オレンジイノベーション・プロジェクト」等、認知症啓発活動
	一般社団法人つなぎ	警察OBが運営する送迎を中心とした生活サポートサービス
	株式会社COCO・WA・DOCO	電話に後付けできる特殊詐欺防止・生活支援システム（仮称）

【参考】開発している製品・サービスの例



- スケジュール管理を支援する分かりやすいデザインの「日めくりカレンダーアプリ yottey(ヨッティ)」



- 10万円以下の紙幣の引出しのためのシンプルな機能を持ち、操作に迷わない・間違えにくく、どなたでもスムーズに利用可能なATM「ホックタッチ」



- 紙の日めくりカレンダーをデジタルで再現し、日付と曜日表示をメインとしたデジタル日めくりカレンダー。



- 手を使わずに立ったまま履ける「スパットシューズ」



カラーリング
視覚的な分かりやすさで間違え防止

- 慣れ親しんだガス火調理をいつまでもシニア世代向けガスコンロ SAFULL+ (セイルフルプラス) 視覚的な分かりやすさのためにカラーリング、デザイン等を工夫。



- 1人暮らしの高齢者が使用する電気ポットを通じて、離れて暮らすご家族がポットの使用状況を知ることのできる安否を確認するサービス



- いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつけて“身につけるメモ帳”「wemo」



- 認知症の人の行動とその背景を知ることができる体験型VRトレーニングプログラム「FACEDUO (フェイスデュオ)」



- 誰でも簡単に使える腕時計型の徒歩用ナビ「ツギココ」



- 誰もが誰でも開閉/着脱が出来るファスナー



- 動画を見ながら誰もが楽しくクラフトキットをつくることのできる「オンデマンドくらふと」



- 日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」



- 「認知症の方も安心して楽しめる！日帰りバスツアー」

momote



- 誰でも、いくつになっても、使いやすい・続けやすい高保湿スキンケア「momote (モモテ)」



- 思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く「TEKODEKO RECOLLECTION 人生まるごと回想アルバム」

パートナー団体の拡大

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会、厚生労働省と連携し、開発に参画する認知症の人の募集にご協力いただくパートナー団体、自治体、介護事業者、医療機関等の拡大に向けた取組を実施。
- 令和7年1月末時点で**認知症の人393名、家族・支援者等284名、計677名**※が開発活動に参画。

※今年度実績値、延べ人数

黒字：過年度より参画
青字：今年度より参画
(予定を含む)

自治体

- 京都府
- 兵庫県太子町
- 三重県四日市市

介護事業者

- 特別養護老人ホーム 六甲の館
- 北区在宅デイサービスセンター かみやま倶楽部

医療機関

- 京都府こころのケアセンター
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ

当事者団体等

- 地域共生開発機構 ともつく
- レイの会
- NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター
- ひょうご認知症希望大使活動パートナー

自治体

- 鳥取県鳥取市

自治体

- 福岡県福岡市
- 福岡県宗像市
- 大分県

介護事業者

- ケアグループなでしこ

自治体

- 山形県天童市

当事者団体等

- NPO法人ニット

自治体

- 静岡県三島市

医療機関

- 国立長寿医療研究センター

当事者団体等

- 一般社団法人ボーダレス

自治体

- 東京都八王子市、日の出町
- 埼玉県さいたま市
- 神奈川県
- 神奈川県大和市、横須賀市

介護事業者

- 有限会社ハピア オレンジカフェ/ハハ
- 100BLG株式会社
- NPO法人シニアライフセラピー研究所『亀吉』
- 社会福祉法人池上長寿園
大田区若年性認知症支援相談窓口
- 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑
- HYS Space

医療機関

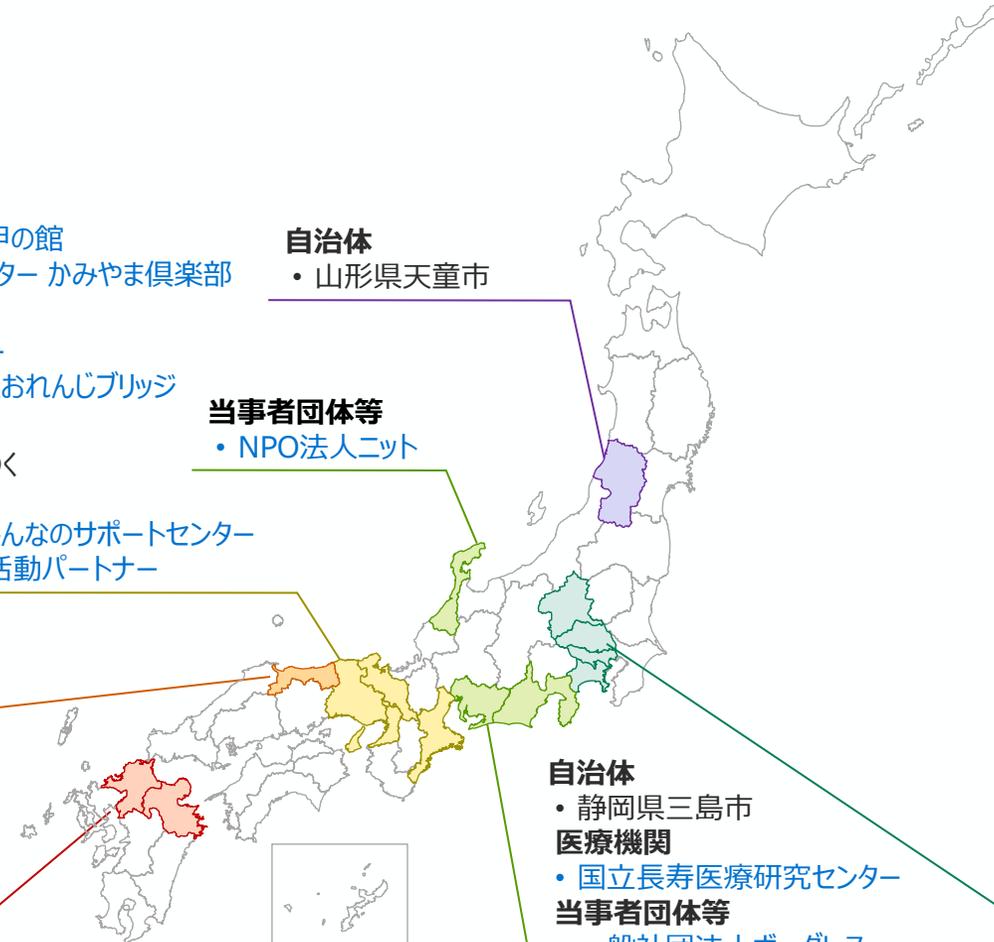
- 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」

当事者団体等

- NPO法人マイway
- リンカフェ
- さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター
- わすれな草の会
- 一般社団法人ユニオン
- 一般社団法人Dフレンズ町田
- ミモザ
(東京都武蔵野市の若年性認知症の仲間と家族の交流の会)
- NPO法人いきいき福祉ネットワークセンター

当事者団体等

- JDWG
- 認知症の人と家族の会



オレンジイノベーション・アワード2024 概要

- 本取組の認知拡大に向け、企業や団体等を対象とした表彰（オレンジイノベーション・アワード）を開催。
- 計35件の応募から、受賞企業を決定。2025年3月5日に表彰式を開催予定。



オレンジイノベーション・アワードの概要

<p>目的</p>	<p>• 認知症の人とともに、生活課題解決や、やりたいことの実現の助けとなる製品・サービスの開発が、さまざまな業界・領域にて推進され「当事者参画型開発」の認知が広がり、共生社会が実現されることを目指し、開催するもの。</p>
<p>対象</p>	<p>• <u>認知症の人との共創のプロセスを重視して開発されたユーザーフレンドリーな製品やサービス</u>、また、<u>当事者参画型開発の中で実践されている活動・取組自体</u>。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>• 応募締切：2024年12月26日（木） • 表彰式：2025年3月5日（水）</p>
<p>審査基準</p>	<p>① 認知症の人の視点／意見が反映されているか ② 独自性／独創性があるか ③ 認知症の人を含めた生活者のQOL向上にどれだけ寄与するか／期待されるか ④ 認知症の人を含めた生活者に対し、広く薦め普及させていきたいと思うか</p>
<p>応募総数</p>	<p>35件</p>

審査員



東京大学大学院
教授
岩坪 威



issue+design
代表
寛 裕介



フリーキャスター・
介護福祉士
駒村 多恵



株式会社博報堂
チーフビジネスプロデューサー
根本 豊



一般社団法人
日本認知症本人ワーキング
グループ
代表理事
藤田 和子



慶應義塾大学大学院教授・
認知症未来共創ハブ代表
堀田 聡子



かながわオレンジ大使
(認知症本人大使)
前田 博樹



DAYS BLG!はちおうじ
代表
守谷 卓也



一般社団法人
セカンド・ストーリー
代表理事
山中 しのぶ



公益社団法人
認知症の人と家族の会
理事
和田 誠

オレンジイノベーション・アワード2024 審査結果

- 最優秀賞はYKK株式会社の「誰でも開け閉めがしやすいファスナー」が受賞した。
- 優秀賞は豊島株式会社、KAERU株式会社が、特別賞はリンナイ株式会社がそれぞれ受賞した。

最優秀賞

YKK株式会社

誰でも開け閉めがしやすいファスナー

- ①マグネットの磁力により開具が引き合うファスナー
(click-TRAK® Magnetic)



- ③オープンファスナーの挿入補助パーツ



- ④ユニバーサル引手



優秀賞

豊島株式会社

医療機関と連携した認知症当事者の方にも優しい衣料品の開発



KAERU株式会社

安心安全、おつりの計算いらずでお買いものを楽しめるキャッシュレスサービス『KAERU』



KAERUは安心安全、おつりの計算いらずでお買いものを楽しめるキャッシュレスサービスです。スマホと事前チャージ式のカードを組み合わせると、簡単にキャッシュレスを利用できます。

特別賞※

リンナイ株式会社

高齢者に「使いやすさと安心」を提供するガスコンロ『SAFULL+』



※特別賞は審査基準「①認知症の人の視点/意見が反映されているか」の点数が受賞企業を含めても高いこと等を理由として選出

最優秀賞：YKK株式会社（誰でも開け閉めしやすいファスナー）

- YKK株式会社は「誰でも開け閉めがしやすいファスナー」の実現に向け、デイサービス、グループホーム、本人ミーティング等と連携し、30名以上の認知症の人とともに開発活動を実施中。認知症の人の声をもとに多世代への展開を目指している点や、複数の試作品を準備して多様な当事者とともに開発を進めている点等が評価された。



① マグネットの磁力により開具が引き合うファスナー (click-TRAK® Magnetic)

左右の開具にマグネットが内蔵されており、マグネットの引き合う力で開具が簡単に組み合う



② オープンファスナーの挿入補助パーツ オープンファスナーの挿入を補助し、操作性の向上を目的とした後付樹脂パーツ



③ ユニバーサル引手 誰でも開け閉めがしやすい引手

実践内容

- デイサービス、グループホーム、本人ミーティング等に訪問し、多様な認知症の人に実際に試作品を体験してもらい、改善点をともに検討。
- 検討結果をもとに試作品の改良を継続的に実施。



審査員からのコメント

- 本人の声から開発が始まったこと、家で暮らす本人だけでなく、高齢者向け住宅やグループホームの本人とともに取り組んだ点を評価したい。本人の力を引き出し、それを活かす取組が広がってほしい。
- 認知症の人の声をもとに、多世代への展開を目指すという点はプロジェクトの理念と合致している。
- 認知症の人だけではなく、多くの方が諦めていることに再度挑戦することにつながる製品であると感じた。
- 複数の試作品を制作し、開発を進めるアプローチも評価できる。

優秀賞：豊島株式会社（認知症当事者の方にも優しい衣料品）

- 豊島株式会社は「認知症当事者の方にも優しい衣料品」の開発を実施中。認知症の人や専門職等の声をもとに機能やデザインの設計を丁寧に実施している点や斜めのボタンホールをはじめとした工夫を盛り込んでいる点等が評価された。

実践内容

- 東京医科大学病院が運営する認知症カフェ「認茶屋」に定期的に訪問し、認知症の人や専門職等に実際に試作品を体験してもらい、改善点とともに検討。
- 検討結果をもとに試作品の改良を継続的に実施。
- 当事者の意見を反映したサンプルを作成→フィードバック→改良を複数回繰り返し、より当事者にとって使いやすく、着用することで気持ちが明るく豊かになる衣料品を目指す。



審査員からのコメント

- 機能面・デザイン面のどちらも本気で向き合っている印象を受けた。おしゃれをしたい本人は少なくなく、これからもこうしたものを作り続けてほしい。
- 専門職とも連携し、当事者の声を1つずつ繊細に製品に反映している。
- 「外出できるおしゃれな服」にこだわり、デザイン性を諦めずに取り組む点が良い。
- 破れにくい素材を使ったり、斜めのボタンホールを実装したり、多様な工夫を盛り込んでいる点も評価できる。

Before 開発当初の製品

工夫を施したところは・・・

- ストレッチ性のある素材を選び、ゆったりとしたサイズ感のデザインです。
- ファスナーに補助挿入パーツを付けて、差し込みやすくしました。
- 脇にマチ切替をつけて腕を動かしやすいようにしています。
- 袖口はゴムの仕様で腕が簡単にまくりやすい仕様。



この製品に対して、こんな「声」をいただきました。

【良いところ】

- 腰回りゆっつりのデザインが良い。
- 袖口ゴムは袖まくりも楽が良い。
- マチもあり、袖回り窮屈ではないので着やすい。

【改善してほしいところ】

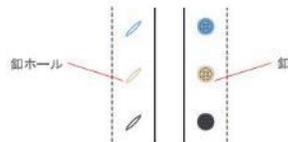
- 色が地味、暗いと気分があがらない。
- ファスナーと補助パーツが同じ色だとパッと見た感じでは認識しづらい。
- ファスナー自体に抵抗感がある。
- 脇のマチ切替が小さい感じ。

After 改善した製品

良いところはそのままに、もっとこうだったら良いのにな…の声を元にして、使いやすくなるよう工夫しました！

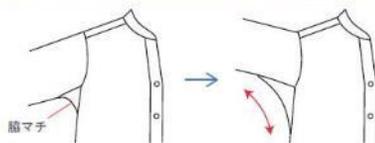
- ◎色が暗くて地味・・・。
- ◎着用して気分があがる綺麗なストライプを選びました。
- ◎ファスナー自体に抵抗感がある・・・。
- ◎従来の釦あきデザインにひと工夫を加えてみました。

- ・各段のボタンとボタンホールの色を変えて、一目でわかりやすい掛け違い防止に。
- ・釦ホールを縦ではなく、斜めにあけることで片手でも開け閉めがしやすい仕様になっています。



◎脇のマチ切替が小さい・・・。

大きめのカットに変更し、着脱時には腕を通しやすく着用中は腕が動かしやすいように工夫しました。



優秀賞：KAERU株式会社（決済サービス「KAERU」）

- KAERU株式会社は、認知症の人の声をもとにUI・UXの設計を行った決済サービス「KAERU」を展開中。認知症の人の生活においても重要な金銭管理に着目し、本人が自分で使い続けることを目指した点等が評価された。



KAERUは安心安全、おつりの計算いらずでお買いものを楽しめるキャッシュレスサービスです。スマホと事前チャージ式のカードを組み合わせ、簡単にキャッシュレスを利用できます。

おつりの計算いらず
コンビニ・スーパー
など幅広く利用可能

難しい操作は
家族にお任せ
できます

あなたを心配する
家族も、つながる
安心を感じられます



実践内容

- 50名以上の認知症の人へのインタビューやユーザテスト等を通じて、UI・UXの改良を継続的に実施。
- 認知症の人の声をもとに、位置情報と連動したメモ機能など、買い物を続けるための仕組みを実装。



審査員からのコメント

- だれもが買い物を安心して楽しめるような製品・サービスの開発に、認知症の本人が参画した点を評価したい。
- 本人が支援者の手を借りずに使い続けられることを考えている点が良い。
- 金銭管理は本人の生活において非常に重要なポイントであり、そこにチャレンジする意義は大きい。
- キャッシュレスをより使いやすい形で認知症の人を含めた多くの方が活用できる社会の実現につながる点は期待できる。

特別賞：リンナイ株式会社（SAFULL+）

- リンナイ株式会社は、誰もが安心して使い続けられることを目指したガスコンロ「SAFULL+（セイフルプラス）」を開発。イラストやデモ機を用いたヒアリングやモニタリングを通じて、機能やデザインの作り込みを実施。

※審査基準「①認知症の人の視点/意見が反映されているか」の点数が受賞企業を含めても高いこと等を理由として「特別賞」に選出

高齢者に「使いやすさと安心」を提供するガスコンロ



カラーリング

ごとく

音声案内



視覚的な分かりやすさで間違え防止



大型ごとくで安心して鍋が置ける



聞き取りやすい音声調理をサポート

実践内容

- 西部ガス株式会社、福岡市、株式会社メディヴァと共同で開発。
- 福岡市在住の認知症の人や支援者等が開発初期段階から参画し、誰もが使いやすいカラーリング、大型のごとく、音声案内等を実装。



体験

審査員からのコメント

- 「慣れたガスで料理がしたい」という認知症の人の実際の声から取り組んだという、開発プロセスを評価したい。
- 取組に参画した当事者と開発者が多様な視点で話し合いをすることで、より使いやすいものになると思うので、今後の展開にも期待したい。

共創に参画した認知症の人や家族・支援者等からの声

- 認知症の人からは、企業と話し合える場があることや社会参加の場があることへの喜びや楽しさに関する声が多く寄せられた。また、家族・支援者等からは開発活動への参画が認知症の人の自己効力感の向上につながるとの声が寄せられた。

認知症の人からの声

- みんなで話すことは、これまでにあまりなかったが、今日はみんなと一緒に多くの話げできた。自分でもみんなと一緒にいろんなことをしていいと分かって、とても楽しかった。
- 自分の思いを企業と話し合える場があることがとても嬉しかった。
- こんなものがあつたらいいなと思っていた製品がこれから開発されて、買えるようになることがとても楽しみ。



家族・支援者等からの声

- サポートが必要なことが増えていたが、この取組を通じてできることや、こうなつたらできそうという兆しが見えたように感じた。
- 普段は物静かなのに、今日はよく話していて驚いた。企業と話すことは認知症の人にとってよい刺激になるのではないかと。



【支援者からの声】

- 日常のなかで「できた」という喜びが非常に重要と感じた。普段の生活でも、楽しいこと、嬉しいことを積み重ねてほしい。

共創を実践した企業からの声

- 企業からは認知症の人の開発プロセスへの参画を通じて新しい視点に気づくとともに、効率的・効果的な開発の実践につながったとの声が多く寄せられた。

プロジェクト参画による効果	企業からの具体的な声
<p>効率的・効果的な開発の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個社ではアプローチが難しかった認知症の人の協力を得られたことでスピード感を持った開発を進められた。 ターゲットをどこに置くかを検討するうえで、認知症の人や支援者、家族とつながり、直接さまざまな意見を聞くことができたことで、よりユーザー目線で開発を進めることにつながった。 共創を通じて得たヒントが誰もが使いやすい製品・サービスの開発につながっている。
<p>新たなネットワークの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信イベントを通じて、認知症の人に加えて、家族や支援者等と出会う機会が得られたため、新たなネットワークの構築につながった。
<p>認知症や認知症の人に対する理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人との対話を通じて、自分たちの思い込みを取り払うことができ、新たな視点の気づきにつながった。
<p>メディア等への露出による認知拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> メディア露出等が増え、認知拡大につながった。

認知症の人とともに過ごす介護事業所に訪問しての体験型研修の様子



実践の様子



情報発信イベントの開催（1/2）

- 本取組の市民向け普及啓発および企業のPR等を目的として、日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ 事務局（経済産業省）主催の情報発信イベントを全国で開催。

イトーヨーカドー アリオ北砂店

2024年9月18日

協力：株式会社イトーヨーカ堂
後援：江東区

大和市文化創造拠点シリウス

2024年9月26日

共催：大和市
後援：神奈川県

イオンモール与野

2025年1月15日

共催：さいたま市、協力：イオンモール与野
後援：埼玉県、埼玉大学

入場無料

認知症当事者とともにつくれた製品・サービスが集まります！

認知症当事者をつくる誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/18 水 10:00～17:00

会場：イトーヨーカドーアリオ北砂店 リーフコート

企画展示

「認知症とともに生きるわたし」写真展
協力：下坂摩(京都府認知症大使) 株式会社朝日新聞社なかもろ編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

特別講演

第一部 14:00～14:15
オレンジイノベーション・プロジェクトってなに？
～認知症の人と一緒だからつくれる、ちょっと便利な朝日～
講師 伊藤 啓之
株式会社日本総合研究所 高齢社会イノベーショングループ 部長/アソシエイト

第二部 14:15～14:45
みんなより一足先に認知症になった“私”が伝える、認知症とともに生きること
100BLCメンバー 前田 隆行
100BLC 株式会社 取締役

出展企業

アディリ株式会社 | イトヨーカドー | welzo | 株式会社 小谷常 | Otsuka 大家製薬 | 株式会社 小谷常 | Chiyoda 大家製薬 | Leotec | softdevice inc. | 太陽生命少年高齢社会研究所 | Chiyoda | YFF | SOCC | TOYOSHIMA 豊田製作所 | 豊橋鉄道株式会社 | 一般社団法人 日本介護美容セラピスト協会 | RUMINO | MAIYA | LOVIC | オールライト株式会社 | RENAISSANCE | ROHTO | YUKAI | 株式会社 ユカイ | YKK | 株式会社 ユカイ | YKK

主催：日本認知症官民協議会
認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）
協力：株式会社イトーヨーカ堂

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら！
URL: <https://www.dementia-pr.com/>

入場無料

認知症当事者とともにつくれた製品・サービスが集まります！

認知症当事者をつくる誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/26 木 10:00～18:00

会場：大和市文化創造拠点シリウス サブホール

企画展示

「認知症とともに生きるわたし」写真展
協力：下坂摩(京都府認知症大使) 株式会社朝日新聞社なかもろ編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

出展企業

アディリ株式会社 | welzo | Otsuka 大家製薬 | Chiyoda 大家製薬 | Cosmotec | 牛乳石鹸 | 株式会社 小谷常 | 第一興商 | 大酸 | Chiyoda | YFF | SOCC | TOYOSHIMA 豊田製作所 | TOYOTA | 一般社団法人 日本介護美容セラピスト協会 | KNOCK ON THE DOOR | オールライト株式会社 | MAIYA | ROHTO | Universal Sound Storage | YUKAI | YKK

【交通アクセス】

小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅 徒歩3分

お車、自転車でお越しの場合 有料駐車場・駐輪場をご利用いただけます。

※出展企業は予告なく変更となる可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

共催：日本認知症官民協議会
認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）
後援：神奈川県、大和市

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら！
URL: <https://www.dementia-pr.com/>

入場無料

認知症当事者をつくる誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

1/15 水 10:00～16:00

会場：イオンモール与野 1階 ローズコート

特別講演

第一部 14:00～14:15
オレンジイノベーション・プロジェクトってなに？
～認知症の人と一緒だからつくれる、ちょっと便利な朝日～
経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア推進課 企画課 小野 雄志

第二部 14:15～14:30
認知症と共生する地域社会
埼玉大学保健センター 社会実証研究センター 地域創生研究部 准教授 近江 真

第三部 14:30～15:00
みんなの幸せを考える、認知症当事者と共に歩むまちづくり
和泉 謙 (さいたま市認知症希望大使) 豊田 謙 (埼玉高オレンジ大使) 花俣みか代 (認知症の人と家族の会 花俣みか代 副代表理事・埼玉支部 代表)

出展企業

認知症当事者とともにつくれた製品・サービスが集まります！

Otsuka 大家製薬 | Cosmotec | Chiyoda 大家製薬 | 株式会社 小谷常 | TOYOSHIMA 豊田製作所 | SOCC | KNOCK ON THE DOOR | RENAISSANCE

※出展企業は予告なく変更となる可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

オレンジカフェ 同時開催！！

@スターバックスコーヒー イオンモール与野
どなたでもご参加ください！

第一部 11:00～12:00
シニアサポートセンター ナーシングヴィラ与野 オレンジカフェよの

第二部 15:00～16:00
さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター カフェ「ちいとも」

特別展示

DX/AI/IoT/VR/HMI技術を用いた人に寄り添う技術
認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局/先端産業国際ラボラトリー 教授/所長 緒貫啓一

URL: <https://www.dementia-pr.com/>

主催：日本認知症官民協議会
認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）
共催：さいたま市 後援：埼玉県、埼玉大学 協力：イオンモール与野

情報発信イベントの開催（2/2）

- 学会、大学・学生、自治体等が主催するイベントでの展示も積極的に実施。
- 今後も多様な主体と連携しながら、全国で情報発信活動を継続的に実施予定。

第20回東京都作業療法学会

2024年7月14日

主催：一般社団法人 東京都作業療法士協会
会場：帝京平成大学池袋キャンパス



大丸福岡天神店 開発製品展示会

2024年11月18日～20日

主催：福岡市認知症フレンドリーセンター
協力：株式会社博多大丸
会場：大丸福岡天神店 パサージュ広場

福岡市「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」と連携、認知症カフェも同時開催



当事者とともにつづいた縁日イベント「オレンジフェス」

2025年1月15日

主催：佛教大学、京都府こころのケアセンター
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ、二条ともいき倶楽部みやcone
会場：佛教大学 二条キャンパス

佛教大学の学生が京都府内の当事者団体等と連携し、企画・運営を実施



【参考】 情報発信イベントの開催の様子

企業の製品展示



1/15 埼玉県さいたま市



9/26 神奈川県大和市



12/2-12/11 経済産業省 本館ロビー

「認知症とともに生きるわたし」写真展



9/18 東京都江東区

認知症の人からの手紙展



9/18 東京都江東区



9/26 神奈川県大和市

認知症の人とのトークセッション



9/18 東京都江東区



1/15 埼玉県さいたま市

認知症バリアフリー情報交換会

- 厚生労働省と共催で、認知症バリアフリーに向けた機運醸成等を目的として、開催。企業、自治体関係者、認知症の人や家族等が計414名（内、現地101名）が参加。今後も継続して開催予定。

日時	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月19日（木） 情報交換会：13時00分～15時00分 交流会：15時10分～16時00分
会場	<ul style="list-style-type: none"> TKP新橋カンファレンスセンター ホール16D
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会：414名 現地会場参加者：101名（登壇者、関係者含む） オンライン参加者：313名（事前申込者ベース） 交流会：91名

情報交換会



交流会



演題	登壇者
厚生労働省における認知症関連施策の動向	厚生労働省 老健局 認知症総合戦略企画官 遠坂佳将氏
経済産業省における認知症関連施策の動向	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 企画官 小野聡志氏
本人から企業へのメッセージ	藤枝市在住 永井光彦氏 藤枝市地域包括ケア推進課 横山麻衣氏
家族から企業へのメッセージ	公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事 鎌田松代氏
企業の実践事例の紹介	トヨタ自動車株式会社 先進プロジェクト推進部 主幹 山田浩史氏 福岡市福祉局ユマニチュード推進部 認知症支援課 課長 矢野邦弘氏
	豊橋鉄道株式会社 総務部 副長 赤川景子氏
	株式会社イトーヨーカ堂 サステナビリティ推進部 総括マネジャー 小山遊子氏 DAYS BLG!はちおうじ 志田武雄氏、水野秀司氏、守谷卓也氏
	株式会社セブン&アイ・フードシステムズ 統括マネジャー 牧野晋也氏

認知症イノベーション・カンファレンス2025

- 3月中旬より「認知症イノベーション・カンファレンス2025」を経済産業省YouTubeにおいて配信予定。
- オレンジイノベーション・アワードや、社会参加型デイサービスである100BLGでの研修を通じた学び、医療機関と連携した実践の状況等を各実践者から発表いただく予定。

プログラム（仮題）および登壇者

オレンジイノベーション・アワード受賞企業講演

進行 株式会社博報堂 チーフビジネスプロデューサー 根本豊 氏
登壇者 オレンジイノベーション・アワード受賞企業

オレンジイノベーション・アワード本人・家族審査員トークセッション

進行 株式会社日本総合研究所
登壇者 本人審査員 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事 藤田和子 氏
かながわオレンジ大使 前田博樹 氏、セカンド・ストーリー 代表理事 山中しのぶ 氏
家族審査員 認知症の人と家族の会 理事 和田誠 氏

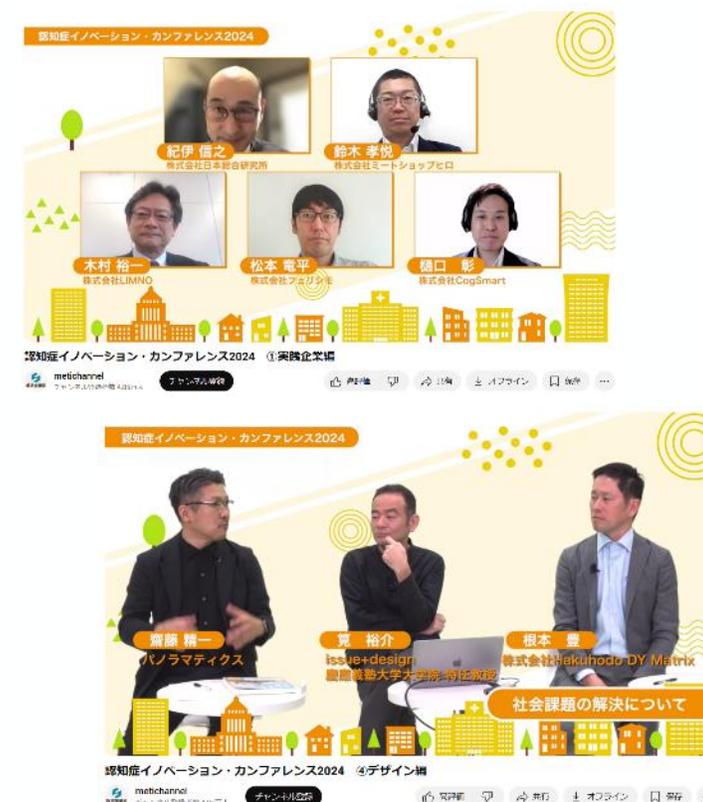
100BLG研修を通じた学び

進行 100BLG株式会社 取締役 前田隆行 氏
登壇者 株式会社シーエーシー、株式会社チヨダ、株式会社テコデコドリーム研究所、株式会社ルネサンス

当事者参画型開発×医療機関との連携の取組

進行 経済産業省
登壇者 東京医科大学病院 臨床心理士 都河明人 氏、豊島株式会社

【参考】昨年度の開催映像は以下で公開中
<https://www.dementia-pr.com/conference/>



「当事者発信」の取組の実施状況

- 令和5年度から、認知症の人が企業に対してどのような製品・サービスを開発してほしいか等を提案する「当事者発信」の取組を開始。

当事者発信の取組

認知症の人 → 企業

認知症の人が企業に対して、
どのような製品・サービスを開発してほしいか、
どのような企業に開発してほしいかを提案する

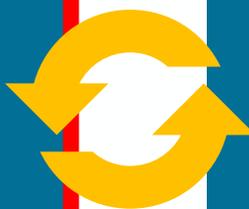
2023年度から開始

企業発信の取組

認知症の人 ← 企業

製品・サービスの開発を行いたいと
考えている企業と認知症の人をマッチングする

2020年度頃から開始



「当事者発信」の取組の実施状況

- 昨年度の実践を通じて得た認知症の人の声を企業公募等に活用し、YKK株式会社等の参画を実現。
- 今年度は、鳥取県鳥取市、東京都日の出町、三重県四日市市の3地域で取組を実施。

1

YKK株式会社
×鳥取県鳥取市

- 昨年度の当事者発信の取組での「開けやすいファスナー」を求める当事者からの声を受け、YKK株式会社が本PJに参画。
- 令和6年12月に鳥取市と協働し、本人ミーティング参加者や介護事業所利用者等とともに当事者参画型開発を実践。



2

イオンモール株式会社
×東京都日の出町

- 昨年度の当事者発信の取組を踏まえ、イオンモール株式会社が他エリア・店舗での実践を希望。
- 令和7年1月に日の出町と協働し、本人ミーティング参加者や家族会参加者とともに当事者参画型開発を実践。



3

豊島株式会社
×三重県四日市市

- 豊島株式会社は今年度から本PJに参画。これまで特定の商品を対象とした当事者参画型開発の実践を進めてきた。
- 「服を着ること」の先にある目的を鑑み、当事者のよく行く場所に一緒に買い物に行き、その場面でのバリアを確認し、幅広い製品・サービスの開発につなげること。
- 2月21日に初回の取組を実施予定。

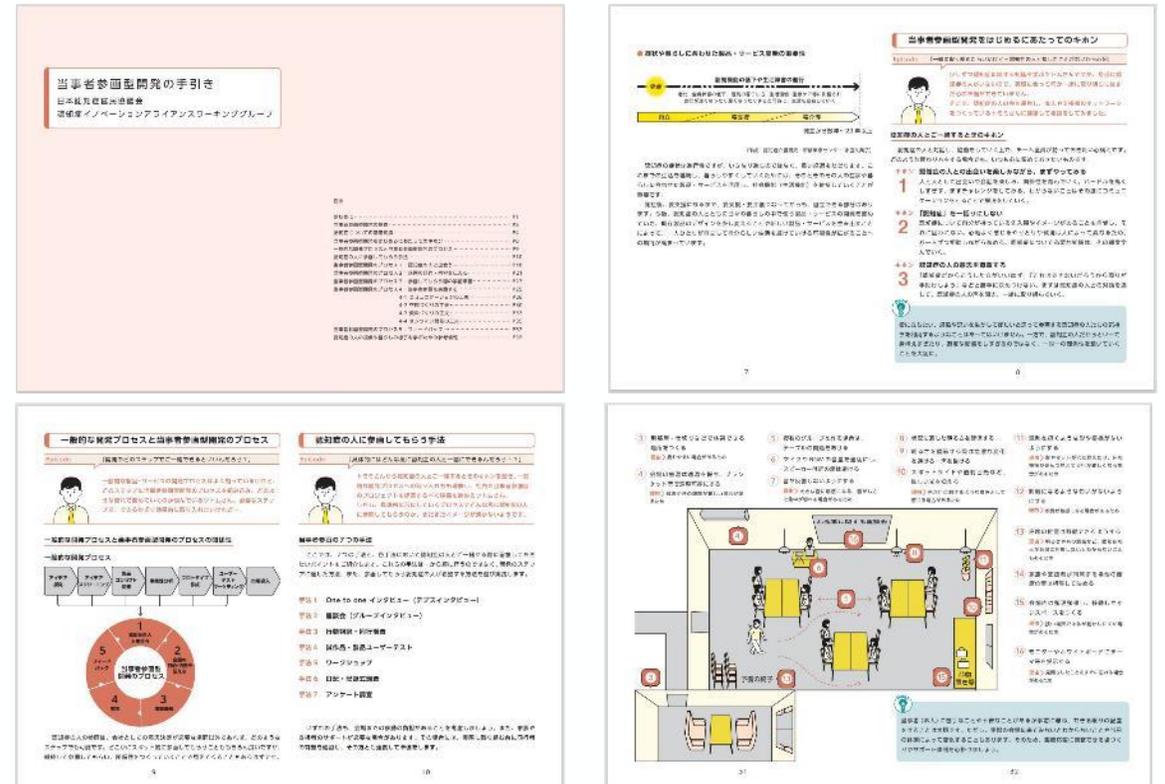
企業向け手引き（現行版）作成の経緯および概要

- 2022年度に開発の実践から得た学びや本人、家族、有識者、企業担当者等へのヒアリングの成果をもとに、認知症の人と企業の共創に関するノウハウ等を整理した「当事者参画型開発の手引き」を作成・公開した。
- 手引き作成時点から実践事例の増加や「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の施行等、さまざまな変化が生じていることから、本手引きの見直しに関する検討を今年度実施中。

参考：手引きURL：https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ninchisho_wg/pdf/2022_002_04_00.pdf

対象者	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人との共創・当事者参画型開発に取り組む企業の開発担当者、マーケティング担当者 上記のような立場の人々を支援する企業のリサーチャー・インタビュアー 認知症の人の支援団体や自治体の担当者等
目的、伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人と対話し、互いに心地よく、楽しみながら、当事者参画型開発を意義のあるものにしていくために必要な視点 「当事者参画型開発」に取り組む場合の方法論・ノウハウ
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 当事者参画型開発の意義 認知症の基礎知識 当事者（本人）とご一緒するときのキホン 当事者参画の7つの手法 当事者参画型開発のプロセス、プロセスごとの留意点 参考情報

企業向け手引き イメージ



2022年度の制作時にヒアリング等にご協力いただいた関係者の皆様（所属・役職は当時のもの）

- ◆当事者参画の取組を実施している企業 4社
- ◆一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事 藤田 和子様 ◆株式会社マネーフォワード 執行役員CoPA Fintech研究所長 瀧 俊雄様
- ◆一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 丹野 智文様 ◆認知症介護研究・研修東京センター 研究部長 永田久美子様
- ◆公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫様 ◆京都府、福岡市、大和市、名古屋市 ご担当者様
- ◆慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授 堀田 聡子様 ◆NPO法人マイway ご担当者様

企業向け手引き（現行版）の主な内容

- 手引きでは、実際にこれまで、当事者参画型開発に取り組んだことのある企業の経験者や認知症の人や家族、支援者等へのインタビューを通して伺った内容を参考例として紹介。
- 会場づくりや資料づくり、オンラインでの開催などにおける留意ポイントを、実際の場面で取り組みやすいよう、具体的にイラストを使って説明。

認知症の人と出会う方法

開かれている場を訪れる以外にも、認知症の人をこちらから探し、直接お話しする時間をいただくというアプローチも可能です。ここでは、実際に企業の方が実践された出会い方をご紹介します。

社内の一斉メールやチャットグループでプロジェクトのことを書いてみたら、認知症の人が家族にいる社員が協力したいと手を挙げてくれた！

認知症についての書籍を出版している医療の専門職の人にアポイントをとってみたら、一度相談に乗ってもらえることに！

SNS等で認知症であることを公表し、発信・活動している方にダイレクトメッセージをお話しする機会をもらった。

当事者（本人）が登壇する講演会に参加。講演会の後、主催の方に頼んで、ご挨拶をさせてもらい、後日改めて時間をいただくお願いができた。



最初から「企業の人」対「ユーザー・対象者」として出会うのではなく、まずは「人」対「人」として知り合い、一緒に過ごす時間をつくるのが大切です。本やネットで知識を学ぶことも必要ですが、人によって症状も暮らし方も全く違います。出会う人数が多ければ多いほど、新たな発見があるはずですよ。

ともに取り組む方と出会う

当たり前のことですが、認知症の人は、お一人おひとり暮らしの様子も好きなことや関心のあることも違います。「認知症の人」と一括りにして、参画してもらう方のイメージを絞らず、どなたでもいいとお願ひするのではなかなかうまく進みません。

取り組みたいテーマやプロジェクトの内容に興味関心を寄せてもらえる方、当事者（本人）の経験を生かすことができる方を想定し、具体的にどのような方と一緒に取り組むかを考えてみます。

料理の段取りが難しくなっている方でも使いやすいキッチングッズを考えたい…

昔から料理が好きで、家族や親戚に振舞うことが大好きでした。認知症になってからは、少しずつ料理をすることが難しくなってきたけれど、できるだけ自分で料理をしたい！

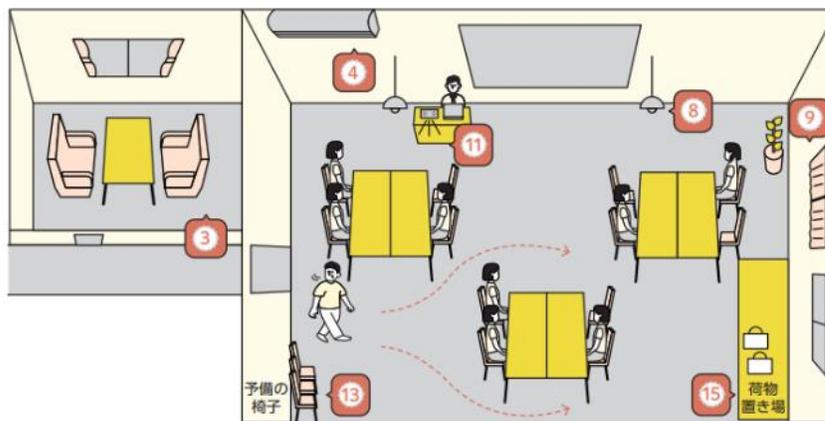
記憶障害のある方に役立つメッセージアプリの開発に参加してほしい！

営業経験があるので、お話しすることが好きだし、人とのやりとりは得意！

身体がうまく動かせない方でも、着脱しやすい洋服を考えたい…

夫婦や友達同士でお出かけすることが楽しみ。認知症になってからは、着替えに時間がかかるようになってきたけれど、これからもいろんなところに行きたい！

- 刺激になるような匂いがないようにする
理由＞嗅覚が敏感になる場合があるため
- 状況に適した明るさを確保する
- 明るさを調節する際は急激な変化を避ける・声を掛ける
理由＞影やマットが穴に見えたり、床の模様で平面が歪んで見え歩行が難しくなる場合があるため
- 会場の室温は適温を保ち、ブランケット等で調整可能
理由＞体温や汗の調節が難しい場合があるため
- 状況に適した明るさを確保する
- 明るさを調節する際は急激な変化を避ける・声を掛ける
理由＞影やマットが穴に見えたり、床の模様で平面が歪んで見え歩行が難しくなる場合があるため
- スポットライトや直射日光など、眩しい光を抑える
理由＞光が目にも刺さるように痛みとして感じる場合があるため
- 混雑を招くような影や模様がないようにする
理由＞影やマットが穴に見えたり、床の模様で平面が歪んで見え歩行が難しくなる場合があるため
- 複数のグループを作る場合は、テーブルの間隔をあける
- マイクやBGMの音量を適切にし、スピーカー付近の席は避ける
- 音が反響しないようにする
理由＞大きな音に敏感になる、騒がしさを集中しがちな場合があるため
- 座席の位置は移動できるようにしておく
理由＞明るさや音の調節など、ご本人が会場に到着しないとわからないこともあるため
- 支援者や家族が同席する場合の座席位置は相談して決める
- 会場内は整理整頓し、移動しやすいスペースをつくる
理由＞狭い場所では体が動かしにくい場合があるため



- 別部屋・仕切りなどで体験できる場所をつくる
理由＞疲れやすい場合があるため



当事者（本人）に苦手なことや不安なことがあるか事前に尋ね、できる限りの配慮をすることは大切です。ただし、実際の会場に来てみないとわからないことや当日の体調によって変化することもあります。そのため、臨機応変に調整できる場づくりやサポート体制をつくりたいものです。

企業向け手引きの見直し方針

- 手引きの基本的な構成は現行版を維持しつつ、第1回イノベーションアライアンスWGや当事者参画促進セッション等での議論を踏まえ、以下の方針で現在更新作業を実施中。
- 関係者との意見交換を引き続き行いながら、年度末に見直し版の制作を完了・公開予定。

① 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」および「認知症施策推進基本計画」を踏まえた内容の更新

- 基本法や計画の解説、「共生社会」や「新しい認知症観」に関する記述を追加。
- 基本法や計画の考え方を踏まえ、手引き全体の表現の見直しを実施。
 - ✓ 認知症の人を過度に特別視するような記述や企業の先入観となり得る記述 等

② これまでの実践から得た学びや工夫、認知症の人や企業等の声の反映

- 初版作成後（2022年度以降）の実践から得た学びや工夫に関する記述を追加。
- 認知症の人や企業等の声を含めた企業の開発事例や体験記等を追加。

③ 当事者参画型開発を行うことの企業にとっての意義・メリットに関する記述の充実

④ 昨年度当事者参画促進セッションで整理した「理念」や「行動指針」の反映

- 詳細次頁に掲載。

【参考】「理念」および「具体的な行動指針」

- 昨年度、当事者参画促進セッションでの議論等を通じて、本プロジェクトの理念・具体的な行動指針を下記のとおり設定。本プロジェクトの理念・具体的な行動指針を下記のとおり設定。
- 下記の内容も今回の見直しに合わせて、手引きに反映中。

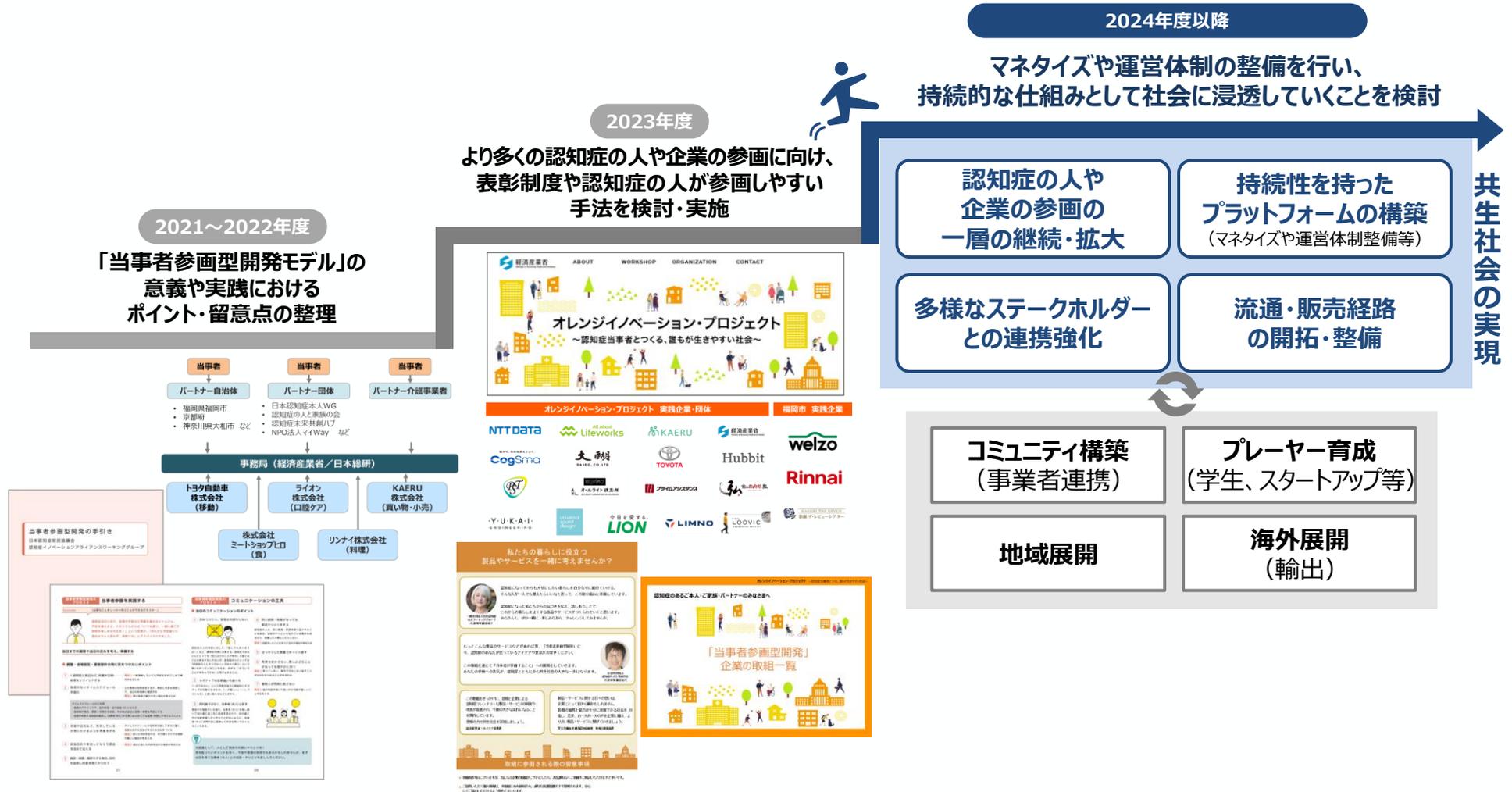
理念	具体的な行動指針
① 認知症の人との出会いを 楽しみながら、まずやってみる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ハードルを高くしすぎず、まずチャレンジをしてみる ✓ わからないことはその度にコミュニケーションをとることで解消をしていく
② 「認知症」を一くりにしない	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知症について先入観やイメージがあることを自覚し、それに囚われない ✓ 心地よく感じるやりとりや環境は人によって異なるため、一人ずつと相談しながら進める ✓ 認知症の人だからといって身構えすぎたり、過度な配慮をしすぎるのではなく、目の前の当事者との傾聴・対話を重視し、認知症について必要な知識は、その都度学んでいく
③ 認知症の人の意思を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知症の人の話を聞くことから始める ✓ 認知症の人に参画の同意を得る ✓ 「認知症だからこうした方がいいはず」「これはできないだろうから周りが手助けしよう」などと勝手に決めつけない ✓ 参画に対する正当な対価を支払う（謝金、試供品、ポイント等）
④ 認知症の人と“チーム”として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知症の人と企業が対等に納得のいく議論ができるように、一対一の関係性を築くことを大切にする ✓ 認知症の人と取組の進捗を定期的に共有する
⑤ 認知症の人に明確に 「伝える」・「伝わる」ことを意識する	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知症の人の希望に合わせて、パートナーが同行・同席できるようにする ✓ 認知症の人が負担なく参画し、自分の考えを整理する時間を持てるよう、余裕のある計画を立てる ✓ 企業向け手引きを参照し、負担の少ない空間づくり・分かりやすい資料づくりを心がける

当事者参画型開発モデルの推進

② 今後の本取組の実施方針

今後の取組の方向性

- 持続的な仕組みの実現に向け、本取組のより一層の拡大を図るとともに、マネタイズや運営体制の整備を行っていく。なお、来年度以降、本ワーキンググループの構成や議題等は当事者参画型開発モデルの推進を加速するために一部見直しを行うことを予定。



実現したい社会像および必要な事項

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会との意見交換や当事者参画促進セッションでの議論を通じて、本プロジェクトによって実現したい「社会像」およびその「社会像の実現に向けて必要なこと」を下記のとおり整理した。本整理を念頭に、具体的な取組を進めていく予定。

オレンジノベーション・プロジェクトによって実現したい社会像

認知症の人のニーズや経験を反映した製品・サービスが身近にあり、
誰もが、自分の力や個性を活かしながら、大切にしたい暮らしを続けることができる社会

上記の社会像の実現のための必要な事項

- ① 多様な認知症の人が企業の開発に安心して参画し、声や思いを伝えることができること
- ② さまざまな地域で当事者参画型開発が実践されており、多くの認知症の人が開発に参画する機会があること
- ③ 認知症の人と企業の関係が「単発のもの（＝聞きっぱなし）」ではなく、適切なフィードバックが行われる「継続的なもの」であること
- ④ 認知症の人やその家族等の日々の生活に関わる多様な企業が当事者参画型開発を行っていること
- ⑤ 認知症の人とともに開発した製品・サービスにより、企業が十分な収益を上げることができていること
- ⑥ 自分にあった製品・サービスを認知症の人やその家族等が日々の生活の中で気軽に購入・利用することができること

流通・販売経路に関する検討

- 来年度は特に当事者参画型開発で生まれた製品・サービスの流通・販売経路の検討、開拓にも注力予定。
- 認知症の人や家族等の購買者が生活課題を解決する製品・サービスに何を求めているか、どのような状況なら購買につながるか整理し、購買に至る最適な販売経路を検討する。2025年度中を目途に、ECサイト運営事業者と連携した製品・サービスの販売網の構築や、ショッピングモール等と連携したキャラバン形式等を用いた全国販売展開を目指す。

来年度（2025年度）の主な実施事項（案）

- 開発に取り組む企業や認知症の人等の募集
- 企業と認知症の人等とのマッチング支援、伴走支援
- 採択企業向け講座・研修の実施
- **製品・サービスの流通・販売経路の検討**
- **流通・販売パートナー企業との連携・販路開拓**
- 企業の関心喚起・参画促進に向けた取組
- 企業及び当事者の参画拡大に向けた広報等

【連携先（例）】

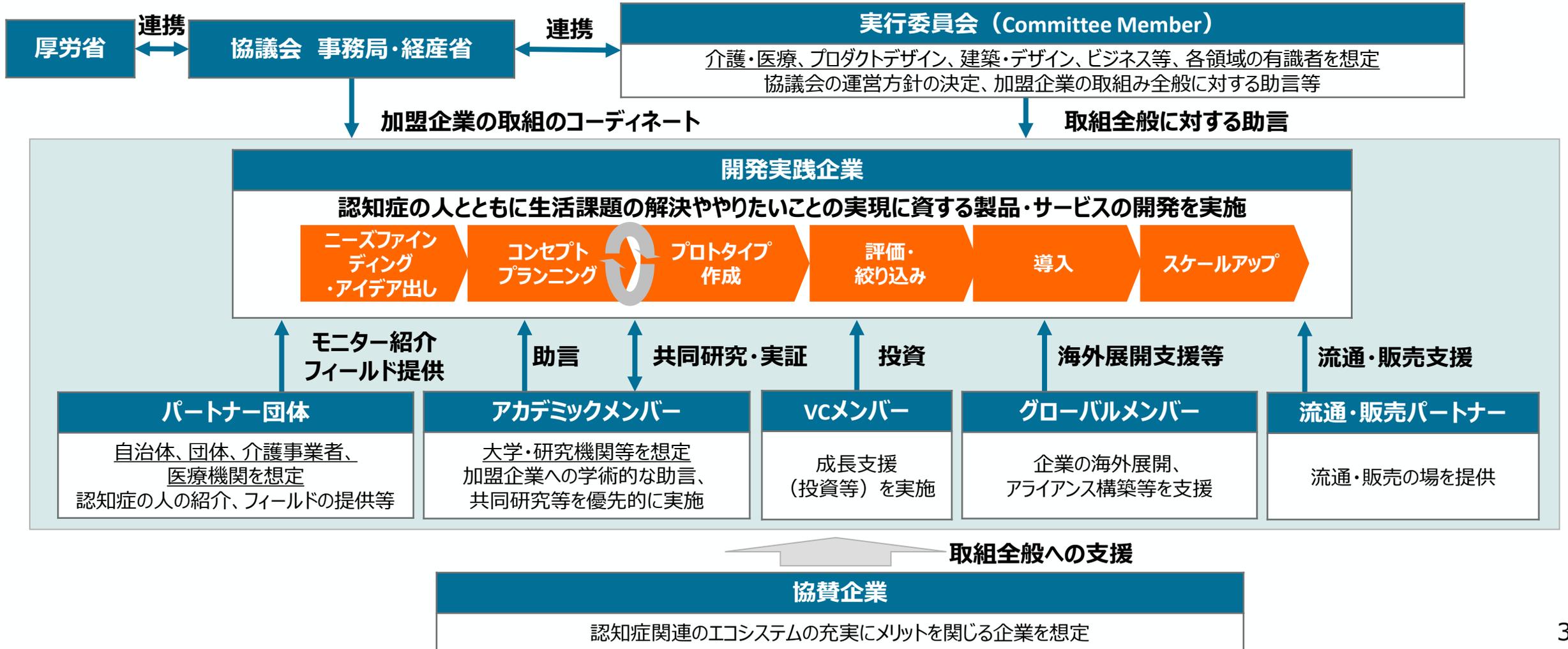
- 通信販売・ECサイト運営事業者
- 商業施設・ショッピングモール運営事業者 等

【連携方法（例）】

- ECサイトにおける本プロジェクト関連製品の紹介・販売ページ構築
- 製品・サービスに触れ、購入することができる常設展示/売り場の整備
- 通信販売（カタログ販売等）における特設紹介ページの作成

「当事者参画型開発推進協議会（仮称）」の立上げに関する検討

- 本プロジェクトの自走化に向け、企業の製品・サービス開発のニーズファイディング/アイデア出しから導入・スケールアップまでの一連のプロセスを支援する「当事者参画型開発推進協議会（仮称）」の将来的な立上げを検討中。



ご意見をいただきたい事項

1. 社会像の実現のために必要な事項①～⑥について、今後どのような取組を行うべきか。

- 特に、①に関して、中等度・重度の方の開発への参画をどのように実現するか、症状等が進行していく方をどのようにフォローすべきか。
- 特に、⑤および⑥に関して、流通・販売経路の開拓・整備に向け、どのような主体と連携し、どのような取組を行うべきか。

＜社会像の実現のために必要な事項（再掲）＞

- ①多様な認知症の人が企業の開発に安心して参画し、声や思いを伝えることができること
- ②さまざまな地域で当事者参画型開発が実践されており、多くの認知症の人が開発に参画する機会があること
- ③認知症の人と企業の関係が「単発のもの（＝聞きっぱなし）」ではなく、適切なフィードバックが行われる「継続的なもの」であること
- ④認知症の人やその家族等の日々の生活に関わる多様な企業が当事者参画型開発を行っていること
- ⑤認知症の人とともに開発した製品・サービスにより、企業が十分な収益を上げることができていること
- ⑥自分にあった製品・サービスを認知症の人やその家族等が日々の生活の中で気軽に購入・利用することができること

2. 「当事者参画型開発推進協議会（仮称）」について、どのような機能や役割を担うことが必要か。

また、立上げに向けた検討を進めるにあたってどのようなことに留意すべきか。